

## 5章

テーマ: 神さまはいのちである。  
この世に対する勝利。  
救いの保証。

### 神さまはいのちである

この章は、このすばらしい短い書の最後の主要な区分になります。この書簡の最初の部分では、‘神さまが光である’ことを見ました。かなりの広範囲に渡る中心部では、‘神さまが愛である’ことを見ました。この最後の章の主題は、‘神さまがいのちである’ことです。

### この世に対する勝利

最初の5つの節の中では、ヨハネはこの世に対しての信者の勝利について語ります。ここでの「世」とは、“宇宙 (cosmos、コスモス)”です。つまり、そのすべての組織と、すべての政府と、すべての自己中心と、貪欲と、悲しみと、病と、そして恐ろしい罪をともなった世界のことです。ヨハネは、神さまの子どもはこの地上で世に勝利をおさめることができると言うのです。

**(Iヨハネ5:1)「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」**

神さまはいのちです。そして、そのいのちは神さまによって生まれる者に与えられます。「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。」と書かれていますが、これが、人がどのようにして新生するかという方法です。ヨハネはここでも、また、ヨハネの福音書のオープニングのところでも、人は主イエス・キリストを信じる単純な信仰を通して神さまの子どもとなるということをとてはっきりと示しています。

(ヨハネ1:12)「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」

これは、あなたがキリストを信じる時に、主が何をされたのかということと同時に主がどのようなお方であるかということを知ることです。もし、主がご自分で主張されたようなお方でなかったのなら、主がおこなわれたことには何の価値もありません。もう一度言いますが、処女降誕は必要不可欠のことです。世の罪のために死なれたこの方はどなたでしょう？世の罪のために死なれたのは、普通の人間ではありませんでした。なぜなら普通の人間は自分自身が罪深いので、自分自身の救いを獲得するために死ぬことさえできないからです。その人は、永遠に神さまから引き離されるさばきの死によって死ぬことしかできません。「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。」と書かれています。新生を生み出すのは信仰なのです。

いったん新生したら、どのようにして自分が新生したことが分かるのでしょうか？

何か、偉大で圧倒的な経験をするのでしょうか？

恍惚状態にでもなるのでしょうか？

必ずしもそうではありません。一部にはそのようになる人もいますが、普通はなりません。「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」と書かれています。あなたが主イエス・キリストを信じたときあなたは新生し、神さまがあなたの天の父とされます。この方は父なる神さまであり、神さまがあなたの天の父になられるのです。もし神さまがあなたの天の父であられあなたが神さまによって生まれた者であるのなら、あなたは神さまを愛するようになります。でも、そこでおしまいではありません。あなたは同時に神さまによって生まれた者をも愛します。言い換えれば、あなたは神さまのほかの子どもたちをも愛する

よくなるということです。ヨハネは、このことを前にも言いました。そして、これは何か新しいことなのではないと言ったのです。Iヨハネ3:11には、

(Iヨハネ3:11)「互いに愛し合うべきであるということは、あなたがたが初めから聞いている教えです。」

と書かれていました。そして主イエスは言われました。

(ヨハネ15:35)『もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。』

「神によって生まれた」という表現は、とてもとても重要です。神さまによって生まれることは、あなたが教会に加わったとか、ある儀式を通ったという事実とは何の関わりもありません。もしあなたが神さまによって生まれたのであるなら、私はあなたが教会に加わり、あなたの教会の儀式に参加することを望みます。でも、特定の儀式に従うことがあなたを神さまの子どもにするものではありません。重要なことは、

あなたは神さまによって生まれたか？

ということなのです。あなたは新生しましたか？主イエス・キリストを自分の救い主として受け入れたとき、あなたは“確かに”新生します。そして新生の証拠は、あなたが神さまを愛しているということです。あなたは父なるお方を愛します。この神さまによってあなたが生まれたのです。そして、あなたは神さまのほかの子どもたちを愛するようになります。なぜなら、彼らはあなたの兄弟姉妹であるからです。これは、一定の教団、教会、民族、派閥、グループに限られません。新生した人は新生したほかの人たちを愛するのです。

Iヨハネの手紙は、あなたがどのようにして自分の救いの確信を持つことができるかに関する書簡です。そしてヨハネは始終あなたに、あなたが神さまの子どもであることの証拠のいくつかを示して来ました。

1. (Iヨハネ2:29)「もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行なう者がみな神から生まれたこともわかるはずです。」

神さまの子どもは、自分の生活の中で“義を行ないます”。これは義が普通ではないとか、異常なものであるとか、あるいはときどきおこなうものであるということを意味しているではありません。義は、あなたの生活の習慣となるべきことです。ときには滑って転んでしまうこともありますが、もしあなたが神さまの子どもであるなら義はあなたの生活の習慣になります。

2. (Iヨハネ3:9)「だれでも神から生まれた者は、罪のうちを歩みません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪のうちを歩むことができないのです。」

神さまの子どもは、“罪を習慣にすることはありません”。その人は罪の中に生きることはしないし、罪を大いに楽しんだり、罪を自分の人生にすることもありません。罪人の生活習慣は罪です。その人はいつでも罪の中に生きています。そして、人は彼が違う行動を取ることを期待することはありません。キリストのもとに行くまでは、私たちはすべて罪の中に生きていたのです。

3. (Iヨハネ4:7)「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。」

神さまの子どもは、“ほかのクリスチャンたちを愛します”。このことは、あなたが神さまによって生まれたという確信を与えるもうひとつのテストです。あなたはほかのクリスチャンを愛していますか？

4. (Iヨハネ5:4)「なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。」

神さまの子どもは、“この世に打ち勝ちます”。

5. (Iヨハネ5:18)「神によって生まれた者はだれも罪を犯さないことを、私たちは知っています。神から生まれた方が彼を守ってくださるので、悪い者は彼に触れることができないのです。」  
神さまの子どもは、“サタンから離れています”。

証拠のうちのふたつ、神さまの子どもであるふたつの母斑(birthmark:生得のあざ、訳注:クリスチャンとして生まれたときにできたしるしという意味だと思われます。)が、この章に書かれています。その箇所にとどり着いたときに、最後のふたつについては、もっと詳細に話します。ヨハネはこれから、愛、従順、そして真理という、本当の子としての身分のテストを強調します。これらのことばを使って口論することのできる人はひとりもいません。愛と、従順と、真理が、神さまの子どもしるしなのです。

**(Iヨハネ5:2)「私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。」**

「その命令」ということばで、ヨハネは何を意味しているのでしょうか？ここでの命令とは、まったく旧約聖書の律法を指しているのではなく、主イエスが地上におられたときにお与えになった命令のことを指しているのであると私は理解しています。

たとえば、Iテサロニケ人への手紙の1章の中には、十戒ではなく、およそ22の命令があります。

(Iテサロニケ5:16)「いつも喜んでいなさい。」

(Iテサロニケ5:17)「絶えず祈りなさい。」

(Iテサロニケ5:19)「御霊を消してはなりません。」

などです。これらは今日の信者のための命令です。ひとりひとりの神さまの子どもは、自分の生活の習慣としてこれらの命令を守りたいはずで、これは何か、彼が熱望すること、自分がしたいと願うことなのです。

**(Iヨハネ5:3)「神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。」**

神さまの命令は、重荷ではありません。これは、命令を守るのが難しいという意味ではなくむしろ、命令が守られるときには、これらの命令が重荷を課することがないことを意味しています。ヨハネは神さまの子どもは神さまの命令を守り“たい”のだと言っています。その人は、神さまの命令を習慣にしたいのです。彼にとって、これらのことをするのは全く難しいことではありません。

大きくて重たい赤ん坊を抱いていた少女がいました。心配した女性がその少女に訊ねました。

「お嬢ちゃん。その赤ちゃんはあなたには重すぎるのじゃない？」

子どもは答えました。

「重くなんかないわ。私の弟だもの。」

その赤ん坊が自分の弟であるときとても大きな違いがあるのです。

「神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。」と書かれています。要点は、神さまの命令が私たちには重荷とはならないということです。なぜなら、私たちは愛を通してそれらの命令を守るからです。

何年も前に幌馬車でオクラホマの小さな町にやって来た、ある男性と彼の家族についての話が伝えられています。彼らは、店の前に置かれたりんご箱に座っていたオーナーに話をするために、町の商店で止まりました。

「この町は、どんな町ですか？」

と、彼らはオーナーに訊ねました。店の主人は

「さて、あんたがたはどんな町から来たのかね？」

その男性は言いました。

「ああ、ボクたちは素晴らしい町から来たんです。ひとりひとりがお互いを知っているように見え、お互いを気にかけていました。彼らは素晴らしい人たちでしたよ。その町から去りたくはなかったんですが、西に移りたくてね。どこに落ち着いたら良いか分からないんです。この町はどんな町ですか？」

店の主人は言いました。

「あんたが出てきた町と同じ種類の町ですよ。」

その男性は言いました。

「いやあ、そうならボクたちこの町に落ち着こうかなと思いますよ。」

ほんの少し時間がたって、もう1台の幌馬車が小さな店の前に乗りつけました。男性は店の主人に訊きました。

「この町はどんな町ですかね？」

そこで店の主人はもう一度言いました。

「あんたがたは、どんな町から来たのかね？」

「ボクたちはあの町から出られて、喜んでいますよ。」

とその人は言いました。

「彼らは、ボクが会ったことのあるうちで、もっとも意地の悪い人たちでした。あまり親切でもなかったし、助けになることもありませんでした。そこではひとりも友だちができなかったし、ボクたちがあの町を去ったのは、そのせいです。」

店の主人は言いました。

「いやあ、キミはこの町もそれと同じような町だってことが分かると思うよ。われらは、同じ種類の人間だよ。」

そして、2人目の人物は先へ行くことに決めました。

店の主人といっしょに座っていた、この町のもうひとりの住人が言いました。

「ちょっと待って！あのふたりに、この町についてふたつの違うことを言うなんて、どういうわけだい？」

店の主人は答えました。

「わしはね、どんな町も、自分が出てきた町と同じだってことを学んで来たんだよ。だって、自分自身は同じ種類の人間だからね。」

言わせていただきますか、神さまの子どもは自分のために何かをしてくれる人を捜すのではなく、本物の行動の中に、そして、ほかの人たちに対する本当の心遣いから自分が愛を表現するべきであるということに認識するべきです。

(ヨハネ13:35)「もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

もしあなたが主イエスを愛しているなら、もしあなたが天の父なるお方を愛しているなら、あなたはほかの信者たちをも愛します。自分が神さまの命令を守っていることを知り、その命令が重荷とはならないことが分かるのです。主イエスは言われました。

(マタイ11:30)『わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。』

主に対する本当の愛があり、真実に主に仕えたいという願いがあるのでない限り、命令は重荷になります。愛と願いがあるのなら、教会の働きや、ほかのミニストリーは決して難しくはなりません。

アイアンサイド博士は、私が神学校にいた間にこのヨハネの書簡を教えていました。そして、私たちに次のような話をしてくれました。

「少し前に、私はインドで5ヶ月過ごした人物の話を読んだ。彼が帰ってきたとき、彼はインドのことを自分の友人たちの家で話し合っていた。そして話がそれて、宣教のことに及んだ。そしてこの人物は、約5ヶ月インドにいたという自分の幅広い経験から次のように言った。  
『宣教も、宣教師も必要ないね。何ヶ月もあそこで過ごしたが、宣教師が何かをしているのは目にしなかったよ。事実、ボクがあそこにいた間中一度も宣教師には会わなかった。教会は、宣教に金を無駄遣いしていると思うね。』

物静かな老紳士が彼のそばに座っていた。彼はそれまで何も言わなかったが、そのとき遠慮なしに次のように言った。

『失礼ですがね。あなたはどのくらいインドにいたんです？』

『5ヶ月ですよ。』

『何のためにインドに行きましたか？』

『トラ狩りのためです。』

『で、トラは見つかりましたかね？』

『いっぱいいましたよ。』

『それは妙な話ですな。』と老紳士は言った。

『私はインドで30年過ごしましたが、1度もトラを見かけたことはありません。でも、何百人という宣教師には会いましたよ。あなたはトラ狩りにインドに行って、トラを見つけた。私は、宣教の働きをするためにインドに行って、多くのほかの宣教師を見つけたんです。』

あなたが何を捜しているかにかかっているのです。

あなたは今日、神さまの働きについて心に掛けていますか？

神さまのみことばを宣べ伝えることについて心を配っていますか？

「まあ、そんなに進歩しているようには見えませんね。」

と言う人たちがいます。そのような人たちは、活動の現場にはいない(から分からない)のです。なぜなら、神さまのみことばは“確かに”宣べ伝えられて、人々の心と人生に影響を及ぼしているからです。

**(Iヨハネ5:4)「なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。」**

今日、あまりにもクリスチャン生活の「勝利」について耳にしますから、新約聖書の中にはほとんどそのことばが書かれていないのは、不思議に思えるかも知れません。

世に勝つものとは何でしょう？世に勝つものとは私たちの信仰です。私たちを救うのは信仰です。そして、私たちを保つのも信仰です。私たちは信仰によって救われています。信仰によって歩んでいます。私たちはイエス・キリストにある信仰によって神さまから生まれました。そして信仰は、あなたと私が自分たちの回りにあるこの世に勝つことのできる、唯一の道なのです。